

**教科担任制と外部人材の活用の工夫による実践**  
**各務原市立那加第二小学校**

1. 目標

- ・毎日19：00（早帰りの日は18：00）には帰る。
- ・タイムマネジメントの意識を高める。

2. 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施教科	実施状況					
非常勤	(週時間)		5年生			6年生		
			実施	学級	時間	実施	学級	時間
1	22	外国語	○	2	4	○	2	4
		家庭科	○	2	4	○	2	4

※18時間には、3・4年生 外国語（2）を含む。

3. 実践の内容

主な取り組みとして次のようなことを行った。

(1) 教科担任制の推進【拡充】…月当たり30時間削減

- ・小学校教科担任加配や理科専科加配により、全学級で1教科以上の教科担任制を実施した。また、高学年では、4教科以上を教科担任制とした。
- ・教師一人あたりの受け持つ教科数が減り、教材研究や評価の時間を削減することにより、教科の本質をより深く理解し、授業に臨むことができるようにした。
- ・3年生以上の担任と低学年の主任に空き時間を確保した。

1年	書写	音楽	昨年度比±0				
2年	書写	音楽	昨年度比+1				
3年	理科	音楽	図画工作	外国語活動	昨年度比+1		
4年	理科	社会	音楽	図画工作	外国語活動	昨年度比±0	
5年	社会	理科	外国語	音楽	図画工作	家庭科	昨年度比+3
6年	社会	理科	外国語	音楽	体育	家庭科	昨年度比+2

(2) ICT支援員、スクールサポーターによる事務仕事の軽減

- ・ICT支援員については、昨年度導入された一人1台のタブレット端末を活用するためのサポートとして、今年度からICT支援員が週1日派遣された。このことにより、タブレットに関する作業（不具合への対応、諸設定等）やICTを活用する際の授業支援等、機器の扱いに不慣れな教員でも授業に専念することができるようになった。【新規】…月当たり5時間削減
- ・スクールサポーターについては、印刷、掲示、教材づくり、アンケート集計、環境整備作業、消毒作業等を行う。作業については、依頼者が内容と期限をホワイトボードに記入し、作業する物と共に準備しておくこととしており、複数のサポーターが手際よく作業を進めている。【拡充】…月当たり5時間削減

## 令和3年度多忙化解消アクションプラン

### (3) 音楽でタイムマネジメント力アップ【新規】

時間を意識し、メリハリを付けて仕事に取り組むために、毎日、18:30と18:50に音楽でお知らせするように設定した。18:30には、「あと30分で仕事をやりきろう」と意識するために『ロッキーのテーマ』を流している。また、18:50には、「蛍の光」を流し、19時を目標に退校することを意識できるようにした。

## 4. 評価結果

### ○担任の平均空き時間数

	全担任	高学年担任		
	1~6年・特支	5年生	6年生	平均
R1	1.6	2.5	3.0	2.8
R2	3.1	3.5	4.5	4.0
R3	2.7	3.3	4.5	3.8

### ○学年別月当たりの平均時間外勤務時間

	低・中学年	高学年	差
	R2	43時間 33分	48時間 42分
R3	54時間 13分	55時間 38分	1時間 25分

### ○教職員の月当たりの平均時間外勤務時間（4月～11月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	4~11月 平均
R1	78時間 23分	90時間 59分	85時間 49分	90時間 02分	18時間 53分	76時間 53分	103時間 00分	56時間 03分	75時間 00分
R2	44時間 22分	24時間 26分	49時間 49分	49時間 45分	29時間 58分	47時間 59分	56時間 51分	51時間 59分	44時間 24分
R3	66時間 07分	54時間 22分	64時間 46分	47時間 50分	14時間 59分	63時間 33分	54時間 27分	55時間 55分	52時間 45分

昨年度より教科担任制を拡充し、各担任が受け持つ教科数を減らした。特に高学年では4教科以上を教科担任制としたことで、他学年の担任と高学年の担任の勤務時間の平均の差を3時間34分削減することができた。また、外部人材の活用により、タブレットに関する作業や印刷や掲示、消毒等にかかる時間について、負担軽減をすることができた。通常の活動があった一昨年と比較すると月当り平均22時間15分もの削減ができた。

## 5. 成果と課題

### (1) 成果

- ・昨年度と異なり行事や授業、公表会などが実施される中でも、教職員一人一人が「19:00」を目標に仕事をする意識の改善や職員が互いに声をかけ合いながら楽しく取り組んだことが削減につながった。

### (2) 課題

- ・教職員一人一人が改善意識をもって常に変化をしていく姿勢を続けていくことが、さらなる時間外勤務時間の削減につながる。また、加配や外部人材等を活用して工夫改善していきたい。